

平成21年度沖縄群島病害虫発生予報第12号(3月予報)

3月の気象予報

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	気 温	降 水 量	日照時間
高い(多い)	60	30	30
平 年 並	30	40	40
低い(少ない)	10	30	30

(平成22年2月19日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

地点別の平年値

	平均気温()	最高気温()	最低気温()	降水量(mm)	日照時間(h)
沖縄群島(那覇)	18.6	21.3	16.2	159.6	108.9

(沖縄気象台発表・統計期間1971～2000・資料年数30年)

3月の発生予報および防除上の注意事項

1 水稲(1期作)

スクミリンゴガイの防除対策

- a 餌や産卵場所となる水路周辺の雑草を除去する。
- b 貝及び卵塊を地域ぐるみで捕殺し貝密度を下げる。
- c 移植後は水深をできるだけ浅水(水深1cm以下)で管理する。

2 さとうきび

収穫後圃場におけるカンシャコバナナガカメムシ(ガイダー)の防除対策

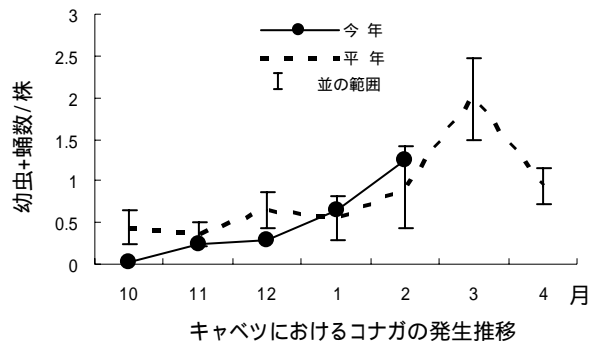
- a 収穫の際に地上に落下した卵や越冬成虫は地表や株元に残存し、収穫後の株から伸びた幼茎などで生育する。
- b 収穫後は圃場管理を兼ね、速やかに耕耘(ロータリー、碎土)し、成虫の発生源となる古株を除去する。
- c 全面および畝間の耕耘は、卵の死亡率を高めることから、第1世代の発生を軽減できる有効な手段である。

3 キャベツ

(1) コナガ

発生程度 : 並
予報の根拠

- a 2月下旬の調査の結果、株当たり幼虫・蛹数は1.3頭(前年3.5頭、平年0.9頭)と平年並であった。
- b 気象予報によると向こう1か月の気温は平年より高い確率が60%と予想されており、本種の発生は助長されやすい。



< 防除上注意すべき事項 >

- a 圃場周辺のアブラナ科雑草の除去および収穫後の残渣処理を徹底し圃場衛生に努める。
- b 薬剤散布は低密度時が効果的であるので、多発する前に散布を行う。
- c 薬剤抵抗性を発達させずいので、同系統薬剤の連用を避ける。

4 トマト

トマト黄化葉巻病の防除対策

- a 2月下旬の調査の結果、発病株率は0.7%(前年0.1%)であった。
- b 媒介虫のタバココナジラミの葉当たり成虫数は0.02頭(前年0.03頭、平年1.55頭)と平年並であった。
- c 発病株は感染源となるため早急に抜き取る。抜き取った株は必ずビニール袋に入れるなどして密封処分する。
- d 施設開口部には目合いの細かい防虫ネットを展張し、タバココナジラミの侵入及び飛散を防止する。
- e 黄色粘着板等により、タバココナジラミの早期発見・早期防除に努める。
- f タバココナジラミの薬剤防除を行う場合は、マルハナバチに影響の少ない薬剤を選定する。

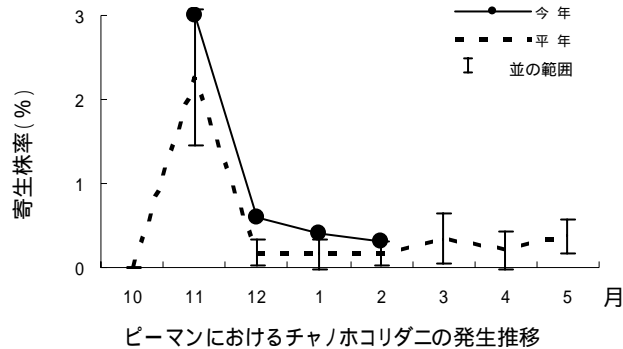
うどんこ病の防除対策

- a 2月下旬の調査の結果、発病葉率は0.3%(前年3.5%、平年1.5%)と平年よりやや低かった。
- b 通風が悪いときに多発生しやすいので、老葉や病葉を除去し、透光通風を良くする。
- c 今後、発生が増加すると考えられるので防除を徹底する。
- d 多発すると防除が困難となるので、葉をよく観察し早期防除に努める。
- e 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

5 ピーマン

(1) チャノホコリダニ 発生程度：並 予報の根拠

- a 2月下旬の調査の結果、寄生株率は0.3%（前年0.6%、平年0.2%）と平年並であった。
- b 気象予報によると、向こう1か月の平均気温は平年より高い確率が60%の見込みで、本種の発生が助長されやすい。



< 防除上注意すべき事項 >

- a 摘葉等の残渣は、ビニール袋に入れるなどして圃場外へ持ち出し処分する。
- b 増殖が速く、多発すると防除が困難になるので早期発見・早期防除に努める。
- c 芯葉部や果実のへたなど薬剤がかかりにくい場所に寄生するので、むらのないよう丁寧に散布する。

うどんこ病の防除対策

- a 2月下旬の調査の結果、発病葉率は1.2%（前年2.6%、平年4.6%）と平年よりやや低かった。
- b 通風が悪いときに多発生しやすいので、老葉や病葉を除去し、透光通風を良くする。
- c 今後、発生が増加すると考えられるので防除を徹底する。
- d 多発すると防除が困難となるので、葉裏をよく観察し早期防除に努める。
- e 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

6 小ぎく(彼岸出荷用)

アザミウマ類の防除対策

- a 2月の調査の結果、10茎当たり成虫数は0.7頭（前年0.3頭）、被害葉率は1.4%（前年0.7%）、被害圃場率は31.3%（前年31.8%）であった。
- b 一部圃場で多発生が見られた。
- c 気象予報によると、向こう1か月の気温は平年より高い確率が60%と予想されており、発生が助長されやすい。
- d 発生源となる圃場内外の雑草を除去する。
- e 葉裏の観察や虫見板の利用等により早期発見し、早期防除に努める。
- f 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

ハダニ類の防除対策

- a 2月の調査の結果、寄生茎率は21.3%（前年22.0%）、発生圃場率は62.5%（前年54.5%）であった。
- b 一部圃場で多発生が見られた。
- c 発生源となる圃場内外の雑草を除去する。
- d 高温乾燥時に発生しやすいので、灌水等により発生しにくい環境をつくる。
- e 多発すると防除が困難になるので、早期発見・早期防除に努める。
- f 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。